

鹿屋市立高隈小学校 特別の教育課程の実施状況等について

1 特別の教育課程の概要

本校では、令和3年度～令和4年度、市内全小学校が文部科学省教育課程特例校の指定を受け、下述の 時数を確保し、現行の学習指導要領（外国語活動・外国語科）を踏まえて、「英語科」として先進的な英語教育の実践研究を推進しています。

英語大好きな子どもたちをイメージし、小学1年生から児童の興味・関心や理解度に合わせた英語を使って段階的に指導し、小学校6年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の基礎を育成し、小・中一貫による英語教育の推進を図ることを目指しています。

学 年	1年	2年	3年	4年	5年(教科)	6年(教科)	総時数
年間時数	20	20	35	35	70	70	250
使用する教材等	オリジナル	オリジナル	Let's Try!1	Let's Try!2	教科書 My Book Picture Dictionary	教科書 My Book Picture Dictionary	

鹿屋市の英語教育の目指す生徒像

「地球規模で様々な問題を考え、郷土の魅力を生かして、英語を使って、能動的に課題解決に向けた行動を起こす児童生徒の育成」子どもたちが英語の学習に主体的に取り組み、コミュニケーション能力を育成した結果、郷土の課題解決に貢献したり、グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献したりする人材の育成を目指します。子どもたち・先生方・学校・保護者・地域が一体となって、「わくわく」するような授業を一緒に作り、多文化共生社会を生き抜く「グローバル人材」の育成を目指します。

2 本校の教育目標

確かな学力を身に付けさせ、豊かな心を育み、心身共にたくましい高隈っ子を育成する

3 本校の令和3年度英語教育の実践について

(1) 1・2年生の取組

身近な生活の中で日本や外国に興味をもてるようになる授業の創造
 クラブルームイングリッシュの積極的活用
 事例集を活用にした教材研究と教具開発

(2) 3・4年生の取組

日本や外国の文化・習慣について知り、関心を深める授業の創造
 クラブルームイングリッシュの積極的活用
 事例集を活用にした教材研究と教具開発

(3) 5・6年生の取組

日本や外国の文化・習慣を理解し、それぞれの国を尊重する授業の創造
 クラブルームイングリッシュ等の意図的活用
 スピーキングクエストによる「聞く」能力の向上と、「読む」「書く」ことを積極導

入した授業改革

- (4) 鹿屋市各地区英語教育圏推進会議について（小中一貫教育）
多文化共生社会を生き抜く「グローバル人材」の育成
小学校6年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の素地・基礎を育成する先進的な研究開発
英語が好きで、自分の思いをお互いに伝えられる鹿屋の子どもたちの育成
- (5) 校内研修体制について
英語科の目的・方針を踏まえた教育課程の見直しと授業改善の推進

4 特別の教育課程の実施状況に関する検証結果

- (1) 自己評価（児童）の結果から

英語の授業は楽しいですか。（各学年児童数が少ないため総計のみ掲載）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
楽しい	(該当児童なし) %	%	%	%	%	%	64.7%
どちらかという楽しい	(該当児童なし) %	%	%	%	%	%	11.8%
あまり楽しくない	(該当児童なし) %	%	%	%	%	%	17.6%
楽しくない	(該当児童なし) %	%	%	%	%	%	5.9%

- (2) 自己評価（教員）の結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
50%	50%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述，一部抜粋）

- ・ 日常的・能動的な英語の活用
- ・ 国際理解・親善を踏まえた郷土や学校の発信等，相互理解によるコミュニケーション能力の育成
- ・ SDGs の目標達成に向けたグローバルな視点の研磨

- (3) 保護者評価結果から

Q1 お子さんは、英語の授業が好きですか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
46%	15%	31%	8%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述，一部抜粋）

- ・国際交流を進んで行い国際的に活躍できる人材の育成
- ・自分に自信をもち、世界中に輪を広げることができる児童の育成

(4) 学校関係者評価結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
100%	0%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。(自由記述，一部抜粋)

- ・英語を身近に感じ，国際感覚を磨く
- ・世界で活躍できる人材の育成
- ・目と耳と口で学ぶ，日常的な英語への慣れ親しみ

5 令和4年度の取組について

(1) 1・2年生の取組

言語や文化に係る見方・考え方を働かせ，コミュニケーション能力の素地を養う授業以外でのALT・JTEの活用と，日常的交流によりコミュニケーション能力の素地を育成する。(ALT・JTEの体育・国語等への授業に参加依頼)
カピックとの交流 徳成女子大との交流 (いずれも予定)

(2) 3・4年生の取組

言語や文化について体験的に理解を深め，コミュニケーション能力の素地を養う授業以外でのALT・JTEの活用と，日常的交流によりコミュニケーション能力の素地を育成する。(ALT・JTEの体育・国語等への授業に参加依頼)
カピックとの交流 徳成女子大との交流 (いずれも予定)

(3) 5・6年生の取組

外国語の音声(聞く)や基本的な表現(話す・読む・書く)に慣れ親しませ，コミュニケーション能力の基礎を育成する。
ALT・JTEの積極的活用と，日常的交流によりコミュニケーション能力の基礎を育成する。(ALT・JTEとの1日2時間時間の学習計画等)
カピックとの交流 徳成女子大との交流 (いずれも予定)

(4) 鹿屋市英語教育圏推進会議と鹿屋市各地区英語教育圏推進会議(小中一貫教育)について

重点領域「話すこと『発表』」を掲げた，特色ある共通実践の推進
郷土教育と国際理解教育を基とした主体的な「発表」の場の設定
授業研究・研究授業による指導力向上

- (5) 鹿屋市小中学校英語弁論大会（小学校：スキット部門）について
「発表」の能力向上について，身につけるべき資質・能力を明確にした上での，講師招聘による校内研修の実施
高学年を一まとまりとして，児童の参加機会を拡大
- (6) グローカル・イングリッシュキャンプについて
全職員への周知と参加児童の体験発表
- (7) 国立台北教育大教育実習生の受入による交流授業並びに遠隔授業について
全職員への周知と実施学校からの情報収集
- (8) スピーキングクエストの実施について
講師を招聘した活用方法の研修
鹿屋市各地区英語教育圏推進会議におけるテーマ・重点事項と関連させた目標設定
- (9) 校内研修体制（イングリッシュガイドブック・学習指導案等の活用）について
3観点及び5領域による評価の在り方と活かし方の研修
小中一貫教育に係る中学校区での目標及び活動設定と，9年間を通して身につけさせる能力育成の研修
事例集の活用と極少人数学級における本校の実情を加味したガイドブックの自校化